

第2回横浜市泉区地区センター指定管理者選定委員会 会議録概要	
対 象 施 設	横浜市地区センター条例6施設
日 時	令和6年7月29日(月) 9時15分～15時10分 令和6年8月2日(金) 9時15分～15時20分
開 催 場 所	横浜市泉区役所4階 4AB会議室
出 席 者	<p><7月29日></p> <p>選定委員：柴田委員長、金子委員、清水委員、石井委員、長谷委員 (計5名) 事務局 : 5名</p> <p>応募団体：【立場地区センター】和の会(3名) 【中田コミュニティハウス】和の会(3名) 【中川地区センター】特定非営利活動法人中川コミュニティグループ(3名)</p> <p><8月2日></p> <p>選定委員：柴田委員長、金子委員、清水委員、石井委員、長谷委員 (計5名) 事務局 : 5名</p> <p>応募団体：【下和泉地区センター】特定非営利活動法人泉南会(3名) 【上飯田地区センター】特定非営利活動法人よつ葉の会(3名) 【しらゆり集会所】白桜会(2名)</p>
欠 席 者	なし
開 催 形 態	非公開
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 指定管理者応募書類審査及び面接審査 2 指定候補者の選定
決 定 事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1 横浜市立場地区センター指定候補者に「和の会」を選定。 2 横浜市中田コミュニティハウス指定候補者に「和の会」を選定。 3 横浜市中川地区センター指定候補者に「特定非営利活動法人中川コミュニティグループ」を選定。 4 横浜市下和泉地区センター指定候補者に「特定非営利活動法人泉南会」を選定。 5 横浜市中飯田地区センター指定候補者に「特定非営利活動法人よつ葉の会」を選定。 6 横浜市しらゆり集会所指定候補者に「白桜会」を選定。
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 委員長から、委員会が成立していることを報告 2 事務局説明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 資料確認 (2) 委員会の公開・非公開 第1回委員会の決定により、応募団体によるプレゼンテーションから総括審査まで、すべて非公開 (3) 本日の委員会の流れ 面接審査の後に総括審査を行う (4) 応募団体について 各団体欠格事項に該当しない。各施設応募が1団体のみのため、プレゼンテーションは団体名を公開のうえ、次の順番で面接審査を行う

- ア 横浜市立場地区センター
- イ 横浜市中田コミュニティハウス
- ウ 横浜市中川地区センター
- エ 横浜市下和泉地区センター
- オ 横浜市上飯田地区センター
- カ 横浜市しらゆり集会所

(5) 評点方法

ア 評価基準項目のうち、以下二点を確認

(ア) 「9-2」は、すべての応募団体が現指定管理者であるため、運営実績を踏まえ「5」又は「0」又は「-5」の3段階で評価

(イ) 「9-3」は、すべての応募団体が「③地域住民を主体とした施設の管理運営等のために地域住民を中心に設立された団体」に該当するため5点の加点

イ 今回の候補者選定の最低基準点は加減点項目を除いた委員配当合計点875点の60%、525点となることを再度確認

3 面接審査

(1) 立場地区センター（応募団体：和の会）

ア 団体プレゼンテーション

イ 質疑応答

(委員) 人権研修の内容と、分野連携型文化構想の内容及び経営委員会との関わりについて教えて欲しい。

(団体) 人権研修は横浜市の題材に沿って、こども虐待など事例を用いて実施している。

当団体は和泉中央と中田の2連合自治会により組織されているが、中田地区の経営委員会では、分野を超えた文化構想を考えている。地域には、子育て・スポーツ・音楽など様々な活動をしている方がいる。例えば、地区センターを拠点として地域で活躍している方による思いの伝わるようなコンサートを開催することで、地域でのつながりと共感が得られ、コミュニティを広げることなどを狙っている。

(委員) 災害訓練の実施時間帯はいつか。

(団体) 昼間に実施している。

(委員) 夜間にも訓練をしたら良いと思う。災害時、照明はどうなるのか。

(団体) 非常灯・誘導灯があるため、すぐに真っ暗になることはない。

(委員) アクセス手段がなく来館できない高齢者等に対して、出向いて行う企画など考えているか。

(団体) 来館利用を前提としているため、現時点では出向いて行う取組はしていない。駐車場が再整備され、今後は体育館に空調も導入されるため、利用しやすくなると思われる。

(委員) 今後は、地域の団体と連携して講師を派遣してもよいと思う。

(委員) 利用者サービス向上としてWEBページを改善したとあるが、どう改

善したのか。また、料理室の稼働率が低いことへの対策は行っているのか。

(団体) WEB ページの改善として、セキュリティを強化するとともに、アクセシビリティも基準を満たすものに変更した。料理室の稼働率向上のため、以前は男性向けの料理教室を行っていたが、コロナで中断してしまったため、復活させていきたいと考えている。

(委員) 図書室に司書はいるのか。また、今後の図書室の方向性は。

(団体) 司書の配置はないが、特定のスタッフをリーダーにして図書購入などを行っている。図書室については、全国で広まりつつある『みんなの図書館』を導入し、共感から生まれるコミュニティ形成を図りたい。

(委員) 地区センターを利用されていない方のニーズを掘り起こしていく取組は行っているのか。また、自主企画事業の参加費はどのように決めているのか。

(団体) 自主企画事業は地区センターに来てもらう・参加してもらうことを目的に実施しているため、参加費は材料費程度としている。講師にもボランティアに近い安価で協力いただいている。ただし一部の自主企画事業では、サークル化した後の経費と参加費が大幅に乖離しないよう、参加費を設定している事業もある。

(2) 中田コミュニティハウス (応募団体：和の会)

ア 団体プレゼンテーション

イ 質疑応答

(委員) 防災計画や災害時の利用について、利用者への説明は行っているのか。また、自主企画事業の「来館者プレゼント」「今月のお楽しみ」はどのようなものか。

(団体) 避難訓練はスタッフに対して行っており、利用者には利用者会議で災害時の対応を説明している。

今月のお楽しみは、小学生以下の子どもを対象にした工作活動で、2か月ごとにテーマを変えて実施している。工作の材料費を経費として計上している。工作で余った折り紙等を使って、季節を感じられる折り紙を折って来館者にプレゼントしている。

(委員) 防災計画等については、定期的に利用している団体等に対しては、年1回でも説明した方が良いと思う。

(委員) 男性は施設利用が少ない傾向にあるようだが、男性から人気のある企画はあるか。

(団体) 体操系は関心が高いが、男性の参加が継続しないのが課題なので、男性向けの企画を考えていきたい。

(委員) 学校敷地内にあるコミハは、学童保育代わりに利用されている場合があるとも聞く。不審者対策グッズなどは整備しているのか。

(団体) 特別な防犯グッズは取扱いが難しい面もあるので整備していない。いざという時はモップなども使えるとアドバイスをいただいたの

で、そのような対応を想定している。

(委員) 安全対策としては、アルバイトで学生に入ってもらう方法もあると思う。若者の取り込みにも繋がるのではないか。

自主企画事業の事後サークル化に際し、どうサポートしているのか。また、新しい取り組みを始める際には、どこから発想を持っているのか。

(団体) アルバイトは地域の方をお願いしている。時間帯によっては館を任せることになるため、気を遣って人選している。様々な意見を取り入れるためにも若者の雇用は必要だとは思っているが、現時点では検討していない。

現在、人気のある講座の参加者に事後サークル化を打診しているが、部屋を取れなかった場合や、リーダーになることへの負担感から、サークル化をするなら他施設の講座に行くなどの意見も聞かれている。引き続き参加者への説明やバックアップをしながら、時間をかけてサークル化を目指したい。

中田地区の経営委員会では、和の会の分野連携の文化構想についても検討しており、これまで参加のない人にも参加してもらえるよう、インターネットやSNSによる情報発信のほか、『みんなの図書館』の各館長が各々発信をすることで、新たな仲間を呼び集めたい。

(委員) 令和5年度の対前年比の利用率が低いのはなぜか。

(団体) コロナ禍でサークル活動が中断され、高齢化なども重なり解散されたとも要因の一つと感じている。魅力ある事業を企画し集客を狙っていく。令和6年度の対前年比月別利用率では、4月が103%、5月が123%と増加傾向となっており、徐々に回復傾向にある。

(委員) 今後の集客のターゲットは、小学生以下なのか、高齢者なのか。

(団体) 家族連れの利用も多いので、若い世代をターゲットに来館者アップを考えている。青少年図書館であったことを生かし、定期的に本のレイアウトを変更するなど、来館したくなるように工夫していく。

(3) 中川地区センター

(応募団体：特定非営利活動法人中川コミュニティグループ)

ア 団体プレゼンテーション

イ 質疑応答

(委員) ボランティア登録制度の導入の狙いは、正規職員を減らして経費削減を図るとのことか。

(団体) 地域支援にはマンパワーが不可欠であり、現在はスタッフが超過勤務で対応している。自治会町内会活動は荷が重いと考えている方でも、自分の子どもが参加するイベントは手伝いたいという声がある。各種イベントには地縁組織の応援もあるので、一緒に活動することで地縁組織への関心も持ってもらえればと考えている。あわせて、職員の超過勤務削減にも繋がると思われる。

- (委員) ボランティアポイント制とはどのようなものか。
- (団体) ボランティアポイントは有償での還元を考えているが、まだ何を返礼・還元するかは検討中である。
- (委員) 現在参加しているボランティアの年代は。多くの自主企画事業を行っているが、イベント保険等の加入はどうしているのか。
- (団体) 花壇ボランティアは20年来活動していただいているが、メンバーは80代前後が中心となり、常時活動している方は4名となってしまった。老人福祉センター泉寿荘では、ボランティアポイント制度が利用できるため、同じ活動でもボランティアが増えている。当施設は福祉施設ではないので、この制度が利用できなかった。ボランティアのモチベーションアップのためにも、独自のポイント制を導入したいと考えている。自主企画事業は年間を通して賠償保険に加入している。
- (委員) 利用者が自由に意見を伝えられる「投書箱」にはどのような意見がきているのか。また、回覧等を活用した、現在の利用者以外の方の意見収集等について、どの様に考えているか。
- (団体) 利用者の声としては、体育室へのエアコン設置の希望が多い。卓球利用者からは照明が暗くて球が見づらいとの意見もあったが、今年度中に全館の照明がLED化される。
地区センターをご存知ない方もいるので、町内会に入っていない方への情報発信も含め、SNSを活用していきたいと考えている。
- (委員) 法人としての預金が多いのではと感じる。
- (団体) 法人の設立当初は利益が出ていたが、最近は毎年赤字決算となり、その補填にも充てている。地域の支えによって盛り上げていただいたNPO法人なので、地域に還元できる事業を進めていきたい。
法人の地域貢献の一つとして、エリア内にある児童養護施設のお祭りを支援しており、施設の子どもたちにとってはお祭りを手伝うことで社会参加の機会となり、一般の方にも施設への理解を深める場となっている。また、地縁組織も高齢化・会員数の減少等の悩みを抱えており、活動に必要な資材の運搬等への支援も考えている。
- (委員) 新橋方面からのセンター利用者はどれくらいか。
- (団体) 利用者統計で把握しているのは、区内・区外・市外のみ。統計はとっていないが、駐車場が充実しているため、緑園の方の利用も多い。
- (委員) 地域の団体との連携はどのようになっているか。また、自主企画事業について、無料と有料の違いや参加費の決め方を教えて欲しい。
- (団体) 地域団体との連携については、法人が地域の4つの連合自治会を中心として組織されており、法人役員が地域活動に広く参加しているため地域ニーズがダイレクトに把握できている。自主企画事業に関しては、地域の皆さんの子どもをみんなで育てようとの心意気があり、地縁組織からボランティアの方も多く参加され、子ども向けは原則無料としている。大人向けについては、講師料のほか、カルチ

ャー的な企画については民間を圧迫しない程度にして決めている。

(4) 下和泉地区センター

(応募団体：特定非営利活動法人泉南会)

ア 団体プレゼンテーション

イ 質疑応答

(委員) 体育室では、卓球・バドミントンの利用が多いとのことだが、他にどのようなニーズがあるか。

(団体) 最近はバスケの人気の高い。団体はもちろん、個人利用でも多く、抽選となっている。

(委員) トレーニング器具がある地区センターは初めて聞いた。利用者の反響は。

(団体) 当初は利用者層の設定を高齢の方向けのトレーニング器具として想定していたため、若い方には物足りないかと思い、今年度から理学療法士のご協力で、ケアプラザに健康相談に来ている人を招いて、運動指導をしてもらうために調整している。

(委員) トレーニングできることのPRはしているか。

(団体) 毎月発行している地区センターニュースやWEB ページで情報発信している。

(委員) 自主事業で乳幼児向けの事業が無いようだが、どのように考えているか。

(団体) 乳幼児向けの事業については、今年度からキッズルームでの読み聞かせを増やそうと考えている。併設のケアプラザで子育てラウンジを実施しているため、事業が重複しないように、少し対象年齢を上げて、幼児向けの自主事業を検討していきたい。

(委員) 防犯について、館内・館外巡回や防犯カメラの設置など、警備を手厚くしているが、ケアプラザとはどのように連携しているのか。

(団体) 利用者の入れ替えの時間には、スタッフ全員で巡回してチェックしている。また、ケアプラザと合同で防犯・防災訓練をしている。複合施設なので、お互いの協力体制が必要と考えている。

(委員) ケアプラザや町内会・自治会、社協などとのコラボで上手く運営しているが、コラボをしていくコツはあるか。

(団体) 連自治会は2つあり、密接に連携している。ケアプラザは社協が運営しているため、連携しやすい。また、不登校支援団体には、部屋の優先利用やセンター祭りに参加してもらうことで、社会参加を支援している。こうして繋がりができた方へ、何か機会があるたびにセンターとの連携を積極的に声掛けしている。

(委員) 自主事業ではさまざまな世代間交流を行うなど、魅力的な事業をしていて、興味を持った。どれも参加費を低めに設定されているが、収益についての考えは。

(団体) 最低限部屋代くらいの気持ちで、利用者の参加しやすい料金設定にしている。泉南会はこれまでの繰越利益があるので、そこから有効

活用していきたいと考えている。

(5) 上飯田地区センター

(応募団体：特定非営利活動法人よつ葉の会)

ア 団体プレゼンテーション

イ 質疑応答

(委員) 地域の特徴である多くの外国人に対する取り組みは。

(団体) 運営しているいちょうコミュニティハウスに多文化に詳しい職員がおり、連携して相談支援している。地区センター単独では実施していない。

(委員) 福祉事業所との連携について、当初から現在まででどのような効果があったか。

(団体) 定期的に2つの福祉事業所がパン販売を行っている。また、今月から別の福祉事業所がドライフルーツを販売することになった。体育室の利用者の入れ替え時間に当たるため、販売実績も伸びている。社会参加が重要だと考えているので、多くの利用者 と 接 する こと で 効果はあると思う。

(委員) 泉サポートプロジェクトの活用方法は。

(団体) もみじまつりやあやめまつりにて、近隣の福祉施設に送迎のサポートをお願いしている。

(委員) 最近は自治会・町内会でも参加しない人が増えているが、地区センターの取組を知らない人にとって、地域デビューしてもらうため、どのようにアプローチしているのか。

(団体) 利用者数は毎年度少しずつ増えている。特に体育室の稼働は100%近くである。一方で料理室の稼働が低いので、地域の自治会に食事会として利用していただいている。また、連合自治会の定例会の会場としても利用され、そのたびにPRしている。

(委員) シェアサイクル事業では、ヘルメットの用意はあるか。

(団体) 市の事業のため、地区センターとしてヘルメットは用意していない。シェアサイクルは思った以上に、利用されている。駅から遠い立地だが、逆に利用が多いのではないかと。

(委員) 夜間の利用状況は。

(団体) 少林寺拳法やバスケ、卓球、バドミントンなど、体育室の利用が多い。

(委員) 地域の特色である外国籍の人に対して、外国語表記の案内や利用をしてもらうための取り組みはあるか。

(団体) いちょうコミュニティハウスの多文化担当のスタッフを交えて、今後検討していきたい。

(6) しらゆり集会所

(応募団体：白桜会)

ア 団体プレゼンテーション

イ 質疑応答

- (委員) 古い建物だが、障害者が利用しやすい取組をしているか。
- (団体) 障害者への対応は特に行っていないので、費用・人員を含めできる範囲で検討していきたい。
- (委員) プールと集会所でタイアップした事業は。
- (団体) プールと集会所は指定管理者が違うため、現状は特に連携していないが、子どもフェスティバルでは、青少年指導員に協力していただき、プールの一画を無料で利用等させていただいている。
- (委員) 自主事業について、年間で定期的実施する自主事業は企画されているか。
- (団体) 自主事業は年間で8事業くらい。対応できるスタッフが1人しかいないのでなかなか難しい。毎年定期的実施している自主事業は6事業ほどあるが、自主事業からのサークル化が難しく苦勞している。昨年度のヒップホップが今年からサークル化できた。
- (委員) 各部屋は団体登録すれば誰でも無料で利用できるようだが、利用団体数と部屋の稼働率の状況は。
- (団体) 登録団体数はおよそ200団体で、そのうち定期的に利用しているのは40~50団体。レクホールや中会議室は利用が多い。部屋の稼働率は平均して45%くらい。
- (委員) 継続利用をしている団体を増やすための方策は。
- (団体) 高齢者より若い人が入ってくれないと継続して利用してもらえないと考えている。集会所の利用者の特徴は、未就学児と高齢者は多いが、中間層が少なく、定年延長などで中間層の取り込みは厳しいので、今後も子どもを中心に継続して利用してもらうために、近隣の小学校へ働きかけをしている。
- (委員) 財務諸表でこれまで赤字が続いているが、利用料金はとれないのか。
- (団体) 集会所は決まりで利用料金をとれないので、経費節減などで工夫しながら運営している。
- (委員) カラオケはだれでも無料で利用できるのか。
- (団体) カラオケについては契約料の支出があるので、利用者から使用料をいただいている。5人以上で団体登録していただければ、誰でも利用できる。
- (委員) 新たな利用者を獲得するための取組は。
- (団体) 高齢者の利用が減っていく中で、定年延長等もあり、中間層が新たに入ってくるのは困難。そのため、幼児・小学生に利用してもらえないか、イベントをもう少し増やすなど考えている。

4 総括審査

(1) 立場地区センター

「和の会」が出席委員の合計点 827 点/950 点を獲得した。加減点項目を除いた合計点は 782 点となり、最低基準点の 525 点以上を満たしていることか

	<p>ら、同団体を指定候補者に選定した。</p> <p>(2) 中田コミュニティハウス 「和の会」が出席委員の合計点 830 点/950 点を獲得した。加減点項目を除いた合計点は 785 点となり、最低基準点の 525 点以上を満たしていることから、同団体を指定候補者に選定した。</p> <p>(3) 中川地区センター 「特定非営利活動法人中川コミュニティグループ」が出席委員の合計点 862 点/950 点を獲得した。加減点項目を除いた合計点は 812 点となり、最低基準点の 525 点以上を満たしていることから、同団体を指定候補者に選定した。</p> <p>(4) 下和泉地区センター 「特定非営利活動法人 泉南会」が出席委員の合計点 863 点/950 点を獲得した。加減点項目を除いた合計点は 813 点となり、最低基準点の 525 点以上を満たしていることから、同団体を指定候補者に選定した。</p> <p>(5) 上飯田地区センター 「特定非営利活動法人 よつ葉の会」が出席委員の合計点 850 点/950 点を獲得した。加減点項目を除いた合計点は 800 点となり、最低基準点の 525 点以上を満たしていることから、同団体を指定候補者に選定した。</p> <p>(6) しらゆり集会所 「白桜会」が出席委員の合計点 820 点/950 点を獲得した。加減点項目を除いた合計点は 770 点となり、最低基準点の 525 点以上を満たしていることから、同団体を指定候補者に選定した。</p> <p>5 区長への報告 選定結果報告書を作成し、泉区長へ提出します。</p>
<p>資 料 ・ 特 記 事 項</p>	<p>1 資料 (1) 第2回横浜市泉区地区センター指定管理者選定委員会次第 (2) 横浜市泉区地区センター指定管理者選定委員会評点表 (3) 応募団体の市税納付状況等の照会結果 (4) 応募団体の暴力団排除条例に関わる照会結果 (5) 令和元年度横浜市泉区地区センター指定管理者選定委員会選定結果報告書 (6) 指定管理者公募要項</p> <p>2 特記事項 特になし</p>